

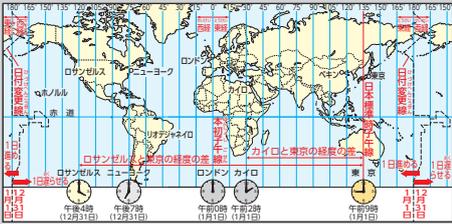
# デジタル教科書指導案／地理的分野

1. 題材 p.16-17 時差でとらえる日本の位置
2. 目標 (1) 世界各地の標準時はどのようなしくみで定められているのか理解できる。  
(2) 地図帳や等時帯の地図を活用し、日本と世界の国々との時差の求め方を考察できる。

## 3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・世界の時刻はグリニッジ標準時が基準となっていて、旧グリニッジ天文台との緯度の差で各国の標準時が定められていることを理解している。
思考・判断・表現	・地図帳や等時帯の地図を活用し、日本と世界の国々との時差の求め方を考察している。

## 4. 指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)
導入	<p>1. 東京とロンドンの写真を題材にし、本時の課題をつかむ。</p> <p>2. 世界の時刻は、どのようにして定められているのか予想し、学習課題への見通しを持つ。</p>	 <p>p.16 1                      p.16 2</p> <p>日本で午前9時に初詣に出かけたときに、ロンドンでは、年が明けたばかりなのはなぜだろうか。</p> <p>世界の時刻は、どのようにして定められているのだろうか。</p>	<p>○ 東京とロンドンの写真を基に、地球上では、経度が異なる2地点間には時差があることに気付かせながら、本時への導入を図る。</p> <p>○ 世界の時刻は、どのようにして定められているのか予想させる。</p> <p>○ 「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。</p>
<b>学習課題：地球上の位置によって、時刻が異なるのはなぜだろうか。</b>			
展開	<p>3. 世界には時差がある理由を考える。</p> <p>4. 地球上における位置と時差の関係について理解する。</p> <p>(1) 各国の標準時の決め方</p>	 <p>p.16 3</p> <p>日本が午前9時のとき、ロンドンは何時だろうか。</p> <p>地球では昼と夜が生じる理由を説明してみよう。</p>  <p>p.17 5</p> <p>世界の時刻の基準となっているのはどこだろうか。</p>	<p>○ 資料から、時差が生じる理由を考えさせる。</p> <p>◆ 自転の影響で、地球には昼と夜があることに気付かせる。</p> <p>○ 世界の時刻の基準となっているのはどこか読み取らせる。</p> <p>◆ 各国の標準時の設定について考えさせるとともに、イギリスの標準時が世界の時刻の基準となっていることを理解させる。</p>

展  
開

(式)  $360 \div 24 = 15$  答え ( 15 ) 度

地球は1日で1回転することから考えると、1時間で経度の何度回転するのかを計算しよう。



p.16 4



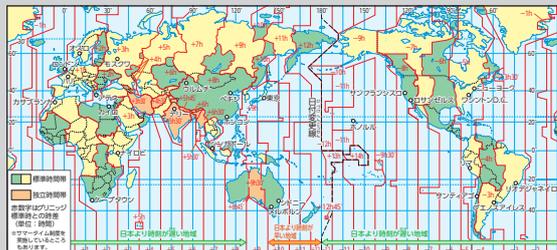
地図帳 p.97-98

日本の標準時はどこを基準に決めているのだろうか。

ロンドン ... 午前3時      カイロ ... 午前5時  
ペキン ... 午前11時      ニューヨーク ... 午後10時

東京が正午のとき、ロンドン、カイロ、ペキン、ニューヨークの時刻を求めてみよう。

東京とリオデジャネイロ（西経45度）の時差を求めてみよう。



p.17 6

世界の等時帯を確認し、日本との時差を確認しよう。

複数の標準時をもつ国があるのはなぜか、説明しよう。

「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。

(2) 時差の考え方と日付変更線の役割

5. 等時帯の地図の見た方を理解する。

6. 本時のまとめをする。

7. 学習課題への振り返りの活動を行う。

○ 学習プリントを活用し、地球は1時間あたり何度回転するのか求めさせる。

◆ 経度15度ごとに1時間の時差が生じることに気づき、東から西に行くほど時刻が戻っていることを理解させる。

◆ 日本の標準時は、兵庫県明石市を通る東経135度を基準としていることを理解させる。

○ 学習プリントを活用し、日本とリオデジャネイロやホノルルの時差の求め方を考えさせる。

◆ 日付は、午前0時を境に変わること気づき、日付変更線の意味を理解させる。

○ 等時帯の地図から、世界各国に標準時があることに気付かせ、世界各地の時差を読み取らせる。

◆ 東西に長い国には複数の標準時があることを理解し、説明できたか確認する。

○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。

整  
理